

【こどもの城】開館20周年記念シンポジウムから

こどもの城開館20周年記念シンポジウム
「子どもはどこで育つ？」

子どもはどこで育つ？

【こどもの城】開館20周年記念シンポジウム「子どもはどこで育つ？」が、11月1日に青山円形劇場で開催されました。アナウンサーの好本恵さんの司会で、「子どもはどこで育つ？」をテーマに4人のパネリストが短い講演を行ったのちに、ディスカッションを行いました。パネリストの講演テーマは以下のとおり（発言順）です。「子どもたちの自立をめざして」（神崎ゆう子さん／歌手）、「子どもたちの居場所づくり」（久田邦明さん／神奈川大学講師）、「映画と子どもと家族的愛情についての短文」（川原ますみさん／映画監督）、「子どもの発達と家庭の役割」（菅原ますみさん／お茶の水女子大学助教授）。



記録ではなく、記憶のなかに 子どもの姿をおいてあげるのが必要

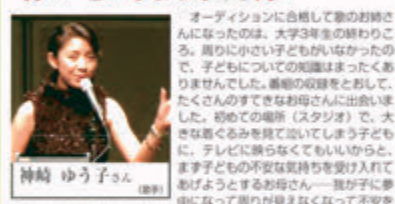
わが家では5年生の男の子が育っています。仕事から家を受けることが多く、手をぬいているわけではないですが、産が育つことにはあまり関わっていません。彼のなかでは父は空想のような存在なんだと思います。3歳の時、4歳の時、5歳の時——それぞれの年齢で考えていた父親があったんだと思います。今、11歳になって、かなりシビアな意見を言うようになりました。



11年間をふりかえると、ぼくの親や祖父母のことを思い出して自分の子どもに接しているような気がします。さらに、ふと気づいたことは「高橋的な愛情」——いつも距離をもって接していた彼に対し、ぼくは父親を自分で演じながら演じていたのではないかと意識して、彼が年齢を重ねるにつれて、そのシナリオもハードな内容になっていくように思いますし、これからも演じていくに違いはないと思います。ときには、悪い父親も……。

運動会などで、デジカメやビデオカメラで撮影する人がたくさんいます。子どもたちは記録されるために生まれているのではないですかね。生まれている子どもたちの姿を生で見てあげないのはもったいない。自分の側面を見て、記録ではなく記憶のなかに子どもの姿をおいてあげるのが必要ではないでしょうか。

育児の最終目標は“自立” “待つ”というよゆうが大事



オーディションに合格して歌のお仕事になったのは、大学3年生の終わりころ。周りに小さい子どもがいなかったの、子どもについての知識はまったくありませんでした。最初の収録をおして、たくさんのすてきなお母さんに出会いました。初めての場所（スタジオ）で、大きな声で歌を聴いて泣いてしまう子どもに、テレビに映らなくてもいいからと、まず子どもの不安な気持ちを受け入れてあげようとするお母さん——我が子に夢中になって周りが見えなくなって不安を受け入れるよゆうがないお母さんはいないな、子どもを受け入れることができるお母さんはずっとたくさんいます。

どこの街にも若いお母さんたちを 手助けしたいという人がいます

若いお母さんたちからみると、地域のおじさん、おばさん、おじいさん、おばあさん、青少年育成者と呼ばれるような人たちは、どうも付き合いにくい。しかられちゃうんじゃないか、注意されちゃうんじゃないか——と考えるかもしれません。そんなことはありません。各地を歩いた経験から確信をもっていることは、どこの街にも若いお母さんたちを手助けしたいと考え、実践している“いい人”がいます。



東京にも、子どもを連れてきてあげ、お母さんは家のそうじ、友だちとお茶を飲みたい、だんなさんとデートする——など、なにをしてもいいという形で居場所づくりをしている高齢の方がいらっっしゃいます。若いお母さんたちが苦労していることをよく知っていて、こうすべきだ、こうでなくてはいけないという以前に、まず助けをあげなければいけない、ということで活動を始めたそうです。子どもを助けていたお母さんが、手がからなくなったのでお手伝いさせてくださいと苦言を吐いてきた。としばらくしてうかがった時に聞きました。

親の役割は多様に変わって行って 一つの家庭だけで済ますのは難しい

子どもから期待される親の役割をまとめてみたいと思います。言葉が話せて二足歩行ができる1歳半くらいまでの時期は、親は「生命維持装置」、安全・健康などを全体的に世話をしていくだけでなく、自然なコミュニケーションで人間とほほやかに接していく基礎の時期です。

字びが始まります。今の日本の子育てのなかで、家庭で済ませることができないところが増えています。子どものなかでも、父や母を安全基地としながら、外の世界が広がっていくと、次の思春期。もう一度大きく発達していきます。大人になろうかと考える時期なので、身近にいる親の生き方をみつめるようになります。子どもが大好きな親は、人生が充実している親、たがいに大人になるころまでいくのが、親子関係の発達だと思います。



親の役割は多様に変わって行って、一つの家庭だけで済むのが難しいことが増えています。ゆるやかに地域に開放していくことが大事なのではないかと思っています。